

2025 事故防止・経験交流集会 実施報告

教育遭難対策委員長 伊東春正（かがりび山の会）

教育遭難対策委員会主催で実施した事故防止・経験交流集会を報告します。

(1) 日程：2025 年 11 月 15 日（土） 13 時～17 時 30 分

(2) 場所：船橋西部公民館

(3) 参加者：7 会から 15 名

（ふわくハイキングサークル、ちば山の会、かがりび山の会、岳人あびこ、船橋勤労者山の会、茂原道標山の会、市川山の会）

(4) 実施内容

① 事故報告

今年度の事故は 16 件でその内転倒事故が 8 件と多い。（男性 2 件、女性 8 件）
高齢者が登山で転倒するメカニズムを解説。

(1) 認知・注意力の低下により転倒場面が増える。

(2) 中枢処理系（脳・神経）の衰えによりの転倒の検知が遅れる。

(3) 筋力不足により体勢の立て直しができない。

(4) 反射的な手つき動作も遅れて岩や木に衝突する。

対策としてバランス訓練、下肢筋トレ、トレッキングポール使用が有効である。

② 事故事例報告

今年 7 月の全国救助技術交流集会で報告のあった、「広戸仙登山（岡山県津山市）の滑落事故」を取り上げた。

登山地図（市 HP）で通行不可となっているコースで、20 人のパーティで山行して、斜度 45 度のトラバース道（鎖設置）で滑落して死亡している。

山行では、ヘルメットやロープ、スリングなどのビレイ装備は装備されておらず、会ではロープは持たない指導をしており、あまりにも安全性を軽視している。

③ 登山計画届システム「コンパス」の紹介と評価

公益社団法人日本山岳ガイド協会とインフカム株式会社が企画・開発したコンパスを、山の会での山行管理としてどこまで使用できるかを評価した。

簡単な操作で山行計画を作成し提出すると、全国の警察とデータ共有されるが、以下の点が問題である。

- ・提出前に山行管理者に事前チェックしてもらうためには、メールで URL を通知する
必要があり、煩わしい。
- ・提出済の山行計画の変更ができない。
- ・同行者の緊急連絡先は、山行リーダーから参照できない。
- ・月間の登山件数や登山者数などを把握する統計情報は取得できない。

このため、現行のコンパスを利用するとしたら、会の山行計画書と山行管理の仕組みは必要であり、最低限を入力したコンパス計画書に会の計画書を添付して提出し、計

画書を警察と共有する目的だけとなる。

④ フリー・ディスカッション

3つのグループに分かれディスカッションを行った。

□初級登山者教育の取り組み

- ・岩・沢・雪のジャンル別にリーダーを置いて教育している。
- ・山行では一人ひとりに何らかの役割を持たせている。
- ・仕事を持っている人への講習は、Web活用や土日に行うなどの配慮が必要となる。

□事故再発防止

- ・ヒヤリハットはどの会も収集しており、年に一回ヒヤリハット講習を実施している会がある。
- ・計画書にコースタイムと所要時間（歩行時間+休憩時間）を設け、どのくらいの余裕度を見ているかを確認している会もある。
- ・事故分析手法として「なぜなぜ分析」を紹介。なぜなぜを繰り返し、直接原因から背景要因まで掘り下げる。

□クマ、蜂、マダニ、毒蛇などの対策

- ・熊スプレーは高価であるため、会装備として購入し、個人に貸し出す会もある。
- ・爆竹は熊には効果がある、蚊取り線香の匂いも熊は嫌う。
- ・マダニリムーバーが販売されている。など。

⑤ 希望者による懇親会

(5) 参加者の感想

- ・山は計画と準備を徹底することの大切さ、状況判断の熟練度が大切なことを学びました。
 - ・現状のコンパスは、会に所属しない、単独行の登山者向けか。
 - ・ダニ、ヒル対策は必要。専門家を招いて講習会を行っては。
 - ・参加者が少なく残念だった。もっと多くの他会の方の参考になる話を聞きたかった。
 - ・とても有意義な時間でした。私にとって考える所が満載な機会となりました。
- などの意見が寄せられた。



フリー・ディスカッション



懇親会

以上